第３回地域検討会（福井県）での指摘事項に対する対応（案）

(1) 第 2 回地域検討会議事概要及び指摘事項について

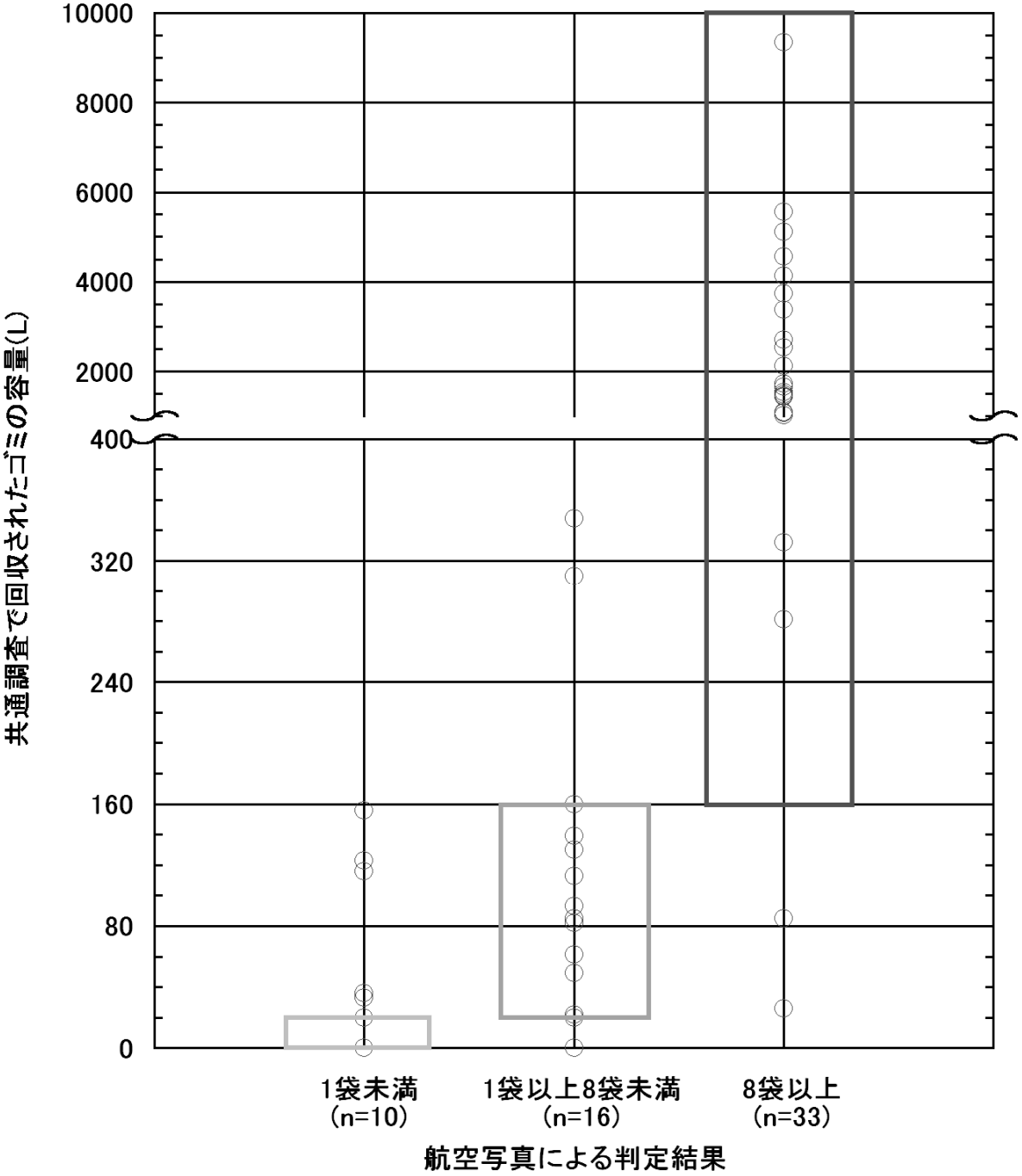
1	【指摘】海藻は今後、回収しない方向とすることに関連し、日本海の１つの特徴として、海藻が環境へ与える影響を評価するべきものがあるので、ある程度量的な押さえはしておいたほうがいいのではと考えている。 【対応】共通調査においては、今まで通り重量・容量の把握を行う。

(2) 概況調査結果概要について

1	【指摘】地区でのクリーンアップについては、実態調査には載せないのか。概況調査結果に掲載されている分だけでは見えない、隠れた活動がたくさんあって海岸のゴミの清掃が行き届いているということを理解していただくためにも詳細な結果は出すべきである。 【対応】おおよその活動状況については追加していく。

(3) クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要について

1	【指摘】実際の現場でのゴミの量とその分類が航空写真と定性的に合っていると言えるかどうか、そのチェックはしているか。 【対応】　航空写真から判定した漂着ゴミの量を検証するため、共通調査で実際に回収されたゴミの量と航空写真の判定結果を比較した(図 1)。航空写真では 20～30cm 以上のゴミの量を推定しているが、共通調査(59 地点)では、1cm 以上の漂着ゴミのすべてを回収し、その容量を計測している。そこで、両者を比較するにあたり、共通調査で回収されたゴミの中から単体もしくは固まり(木切れなど)で容量が 20L 以上のゴミの総容量を集計し、航空写真によるゴミ量の推定結果と比較した。一つの調査地点で汀線から陸方向に複数の調査枠を設置している場合には、それらを合計して海岸線 10m 当たりのゴミの容量を算出した。航空写真の撮影時期(2007 年 8～10 月)と共通調査によるゴミの回収の時期(2007 年 9～10 月)の時間差は最大約 1.5 ヶ月である。 航空写真による判定結果と実際に回収されたゴミの量を比較した結果、1 袋以上 8 袋未満及び 8 袋以上と判定された場合には、概ね実際に回収されたゴミの容量と一致した。共通調査は漂着ゴミの著しい地点で実施されているため、そのような地点での大量かつ大型のゴミは航空写真からもよく識別できていると考えられる。一方、1 袋未満と判定された地点においては、実際に回収されたゴミの量と相関がとれていない地点が多くみられた。航空写真ではゴミがほとんど識別出来ないにも係わらず実際にはゴミが回収されていることから、航空写真の撮影後に漂着したゴミの影響が大きいと推測される。



航空機による判定結果	1 袋未満	1 袋以上 8 袋未満	8 袋以上
比較に用いた調査地点数	10	16	33
回収されたゴミの容量と判定結果が一致した地点数	3(30%)	9(56%)	31(94%)

図 1　航空写真から判定した漂着ゴミの量と共通調査で実際に回収されたゴミの量の比較

(グラフ中の青・緑・赤の枠が航空写真の判定と実際の回収量が一致する範囲を示す)

(4)その他の調査の進捗状況について

特になし

(5)今後の検討事項および次年度計画について

1	【指摘】今後とも誰がどういう形で漂着ゴミを回収して行くかが問題である。調査したからといってゴミが止まるわけではない。 【対応】本検討会の目的の一つは、本調査が終わった後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方を検討することである。第 4 回検討会以降、今後の清掃体制、発生抑制等について議論を進めていきたい。
2	【指摘】発泡スチロールの発生抑制と、散らばった発泡スチロールが植物などに対してどのような影響を与えるのか、ということも今後検討してほしい。 【対応】昨年度実施した「微細なプラスチックあるいは発泡スチロール片の生態系への影響」調査について、その概要を参考資料 3 として添付した。